

平成23年度 佐賀県立佐賀工業高等学校（全日制）学校評価計画

1 学校教育目標
歴史に培われた伝統を学びながら、21世紀を担う平和で民主的な社会の形成者として、人間愛に満ちた心身共に健全で逞しい工業技術者を育成する。 校訓 「至誠剛健」(誠実で心身ともに逞しく)

2 学校経営ビジョン
(ア) 目指す学校像 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりが明るく、生き生きとした活力ある学校生活を送れる学舎 ・地域に根ざし、愛され誇りとされる学校 ・就職・進学など生徒の夢の実現を支援し、社会が求める工業技術人を育成する学校
(イ) 目指す生徒像 <ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育活動に主体的に取り組み、自らの興味・関心・適性を大切にしなが他と協調できる人間性こ富み、心豊かな生徒(人間性と心) ・自ら目標を持ち日々心身を鍛練し、気力・体力の充実こ努める生徒(体力と気力) ・基礎的な知識と技術・技能を習得し、創造性に富み、感性豊かで、生化学び続けることで自らの可能性を追い求める生徒(知識と技術・技能)
(ウ) 目指す教師像 <ul style="list-style-type: none"> ・教育のプロとして、生徒一人ひとりの能力を最大限こ伸ばすために指導力の向上を図り、日々研鑽こ続ける教職員 ・生徒や保護者、地域並びこ産業界等との連携を深め、信頼される教職員

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
① 学力の充実向上(日々の学習、小テストによる学力向上) ② 生徒指導の徹底(規範意識、挨拶、礼儀、マナーの向上) ③ 進路指導の充実(満足度の高い進路の実現) ④ 特別教育活動の推進(主体的に活動する力を養う) ⑤ 教育相談の充実(心の交流を大切にす) ⑥ 人権・同和教育の推進(人権尊重の精神と態度を養う)	昨年度は新たに学校プロジェクト「SAKO V」を立ち上げ、生徒進路実現に向けた指導において①コミュニケーション能力の育成 ②基礎学力の向上 ③キャリア教育の充実を3本柱として全職員がそれぞれの部署で具体的指導方策を工夫・設定して実践した結果、就職試験において前年度76%であった1次合格率が87%に上昇するなど、その成果があまりにつあり、6年連続進路決定率100%を達成することができた。来年度は求人こさらに厳しくなることが予想されるため、この取り組みを推進しながら、高校三年間の流れを重視したキャリア教育の充実を図っていく必要がある。保護者との連携面においては、教育後援会で「3年生を送る会」などの独自の活動を企画・実施してもらったり、体育祭や文化祭への保護者の参加も大変多しなど、保護者の佐賀工業への関心や協力度には高いものがある。今後も学校行事等を活用して、保護者と連携を図りながら学校運営の活性化を推進していきたい。ものづくりを生かした地域貢献については、パーキングパーミット標示板の製作、特別支援学校の教具製作と交流、小学生を対象とした「ものづくり教室」の開催、「キューポラ実習」の小学生見学会の実施などこ取り組み、その活動がマスコミ等こ紹介され、ものづくりを通じて社会に貢献したいという生徒のモチベーション向上にも大きく役立った。これらの成果を次年度に引き継ぎながら、基本的生活習慣の確立や家庭学習習慣の定着などにもさらに力を入れて、学校全体の教育力向上こつなげていく必要がある。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 生徒一人ひとりの進路実現のために プロジェクト「SAKO V」の推進 </div>	

5 総括表						
① 学力の充実向上(日々の学習、小テストによる学力向上)						
領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価及びその理由	成果と課題
教育活動	●学力向上	定期考査問題の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導内容や進捗状況を把握するために、考査前に教科内の検討会を行う。 ・論理的思考力を身につけさせるため、論述問題を10%以上出題する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査の問題は、教科内で検討し、50分の考査問題として論述問題等、質・量の検討を行う。 ・教科内において、答案の誤答分析を行い、不得意とする分野を洗い出し、授業に反映させる。 ・定期考査問題作成こ反映させ 		

				るため、考查問題は教科で保管する。		
	家庭学習の定着	<ul style="list-style-type: none"> 各考查における欠点数を10%減らす。 小テストの年間平均9点以上を10%増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科間で連携を取り、計画的な週末課題を課す。 教科書の持ち帰りの指導を強化する。 各教科科目の小テストの結果から学習の達成状況を把握し、考查前の指導を充実させる。 計画的に学習できるように『学習の計画と記録』表を配布し、実行させる。 朝小テストの意義について指導を徹底し、学習への意識付けを図る。 			
	資格取得の推進	<ul style="list-style-type: none"> 各科の重点資格と基礎資格の合格率10%増を目指す。 ジュニアマイスターのゴールドとシルバー取得者の10%増を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 各科の重点資格と全員が受験する基礎資格の内容等を生徒に充分説明し、資格取得の意義を理解させ、意識の高揚と取得意欲の向上に努める。 資格取得とジュニアマイスターポイント表の年間補習計画を作成して、受験資格の精選及び補習体制の見直しを行い、補習内容と家庭学習の充実を図る。 			
	学力向上のため授業時間の確保	<ul style="list-style-type: none"> 1単位の年間授業時数が35単位時間になるように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事を精選し、授業時間の確保に努める。 			
	ICT活用による教科指導力の向上	教科指導の改善	<ul style="list-style-type: none"> 全ての教科で、ICTを活用した授業展開を実践して生徒の基礎学力向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した授業展開ができるように、各科で教材のデータベース化を図り、生徒の興味関心を高める研究授業を実践して基礎学力の向上に繋げる。 再利用/パソコンを希望の学科、部活に配布し、ICTへの利用やキャリア教育の推進に繋げる。 		

② 生徒指導の徹底 (規範意識、挨拶、礼儀、マナーの向上)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価及びその理由	成果と課題
教育活動	○生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 佐工生としての誇りを持つ 規範意識を常に保つことができるようにする。 道路交通法の遵守 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的生活習慣を身につけることができるようにする。 問題行動の事前予防をする。 懲戒処分件数の20%減を目指す。 交通事故の20%減を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻、無断欠席に対する指導を担任・科と協同して行う。 挨拶・服装の指導を全職員で行うことでよい生活習慣の確立を目指す。 規則正しい校外巡視を実施して、生徒の生活を観るとともに外部からの情報収集を行い指導に役立てていく。 生徒本人のみにとどまらず、家庭や関係機関との連携をすることで多様な指導を実現していく。 		

③ 進路指導の充実 (満足度の高い進路の実現)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価及びその理由	成果と課題
教育活動	○進路指導	進路希望の達成	<ul style="list-style-type: none"> 進路意識の高揚と職業観・勤労観の育成などキャリア教育の推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 進学補習等で基礎学力向上に努める。 1年生の職業人インタビューや2年生のインターンシップまた3学期実施の「進路ガイダンス」等の実施で職業観・勤労観の育成を図り、自らの可能性を 		

			<ul style="list-style-type: none"> ・3年生の進路を100%達成する。 	<p>探る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路——担任の連絡を密にして生徒の適性と希望にあった進路先の情報提供と助言に努め、工業技術人の育成を図る。 ・企業200+α社の訪問を実施し、確実に求人票を獲得し選抜肢を確保する。 ・面接指導の充実（集団討議を実施）。 ・企業説明報告会（6月、3月末）の実施。 ・SPI試験（中間・期末考査）の実施に 加え小テストを1学期に数回行う。 		
④ 特別教育活動の推進（主体的に活動する力を養う）						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的 評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価 及び その理由	成果と課題
教育活動	●健康・体力作り	部活入部推進 食生活と生活習慣の自己管理	<ul style="list-style-type: none"> ・部活入部率を100%に近づけ学校の活性化を図る。 ・食事や睡眠の取り方や必要性について理解し主体的な行動がとれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活のPRの方法をビデオで作成し、より興味をもたせる。職員の部活動体験談等を話して、いずれかの部に入るように勧める。 ・「食・睡眠」についての実態調査を基に具体的問題点について啓蒙・指導する。 ・LHRを利用して食育の講話をする。 ・地区保護者会や後援会総会を利用し保護者にも協力を得る。 		
教育活動	●心豊かな生徒の育成(心の教育)	クラス・学年・学校への帰属意識を持たせ、思いやりのある生徒の育成 ボランティア活動の推進 読書活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・長期欠席や継続欠席者の10%減少を目指す。 ・学校周辺の清掃活動(多布施川沿い草刈り・地域のカーブミラー清掃等) ・図書館周辺の円滑化と環境整備 ・生徒一人当たりの貸出冊数3.5冊以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HRやクラスマッチ、佐工祭等にクラス一丸となって取り組むことにより帰属意識を持たせる。 ・生徒と会話を密にし生徒の動向を知り、副担任・科長・管理職と連携を取り、早めの対応に努める。 ・家庭訪問等により保護者と連携を密にし、三者での話し合いの場を多く持つように努める。 ・回数を増やし、積極的に参加することを奨励する。 ・配架や館内展示を工夫し、生徒の図書館利用を図る。 ・「図書館だより」等を活用しながら情報提供に努める。 		
教育活動	○安全教育	工業科の実習や課題研究における安全教育の徹底 安全点検の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・実習や課題研究において危険防止や安全教育の時間を設ける。 ・3年に一度の実習棟の安全診断を実施する。 ・毎月1回以上校内の安全点検を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の始めに安全作業の心構えと服装指導を行い、終了時に実習室の5S運動(整理、整頓、清掃、清潔、躰)に取り組みせ、安全教育の徹底を図る。 ・年1回実習棟の大掃除を学校全体で実施し、安全意識を高める。 ・校内の各箇所を主任等で分担し、点検項目に従って確認しその結果を毎月校内LANで報告する。 		

教育活動	○地域との連携	ものづくりや部活動をととした地域との連携	・ものづくりや部活動をととして、地元小中学生に工業高校の魅力を伝え、興味を喚起する。	・学校紹介展示、ハイスクールテクノフェスタ展示会で、電子工作やロボットデモンストレーション等を通して、工業技術やものづくりの魅力に興味をもつ子を育成する。 ・機械科のキュポラ実習で小学生や産業技術学院、ポリテクセンターの生徒を招いての鑄造実習を展開し、連携を深める。 ・部活動においても、近隣の小学校に赴き、生徒達と友好を深めるなどの取り組みを推進する。		
⑤ 教育相談の充実（心の交流を大切にす）						
領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	評価及びその理由	成果と課題
教育活動	○教育相談の充実	・担任等と相談係との連携を図る。 ・スクールカウンセラーを有効に活用する。	・担任等と相談係との連携を図り、生徒の状況把握に努め、適切な対応をする。 ・スクールカウンセラーを有効に活用する。	・担任と生徒の面談週間を実施する。 ・生徒、保護者及び教職員と係職員の面談をする。 ・生徒、保護者及び教職員とスクールカウンセラーの面談をする。 ・教育相談に関する職員校内研修会を実施する。		
⑥ 人権・同和教育の推進（人権尊重の精神と態度を養う）						
領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	評価及びその理由	成果と課題
教育活動	○人権・同和教育の推進・支援	進路保障HRの公開授業等に向けての職員研修の充実	・進路保障HRを全学年全クラスで実施する。 ・全職員、年1度以上は各種研修会へ参加する。	・外部講師を招聘し、具体的事例をもとに全生徒・全職員対象の研修会の充実を図る。 ・学期に1度は、職員研修会を実施する。 ・研修に参加した内容を、授業に活かして生徒に還元する。		
⑦ 特定課題						
領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	評価及びその理由	成果と課題
学校経営	○学校の経営方針	学校経営ビジョン・本年度の重点目標の周知	・学校経営ビジョン、重点目標の周知を図り、保護者の周知率70%以上を目指す。	・学校の教育目標、経営ビジョンをわかりやすく解説した資料を作成して、教育後援会総会、地区保護者会、佐工だより、学校ホームページ、及びEDQニュースで保護者への周知を図る。		
教育活動	○教育後援会活動の活性化	地区保護者会、後援会総会・役員会・評議員会等における保護者の出席率の向上	・地区保護者会の出席率を85%以上にする。 ・後援会総会において45%以上の出席率を目指す。	・総会は、保護者の要望を取り入れて土・日曜日に実施する等、出席率アップを目指す。 ・教育後援会の役員及び評議員に総会参加の呼びかけを依頼する。 ・総会時に実習・授業参観及び進路説明会を実施し、参加者の増加を図る。 ・地区保護者会、総会の案内をホームページ、佐工だより、EDQスクールニュースに掲載する。 ・欠席者保護者会を実施する。また、その案内の徹底を図る。		
特定課題	○プロジェクト「SAKO V」の推進	生徒一人ひとりの進路実現	・職員の共通認識に基づいた統一した指導を行う。	・各校務分掌・部顧問会、学年団、各科が連携し、下記の3目標実現のための具体的指導方策を工夫・設定し、実践する。		

			①コミュニケーション能力の向上 ②基礎学力の向上 ③キャリア教育の充実	
--	--	--	---	--

6 総合評価

7 次年度に向けた改善策・向上策

●は共通評価項目、○は独自評価項目